

トビウオ通信 (H18 第2号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 18 年度第 1 回日本海スルメイカ漁況予報》

平成 18 年 4 月 28 日に独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所より第 1 回日本海スルメイカ長期漁海況予報が出されました。今回はその内容を基に、スルメイカの今後の漁模様の検討をします。

今後の見通し (予報期間 5~7 月 日本海区水産研究所発表)

- (1) 来遊量：昨年および近年 5 年平均より少ない
- (2) 漁場：山形県~青森県は昨年を上回るが、新潟県以西では昨年を下回る
- (3) 魚体の大きさ：昨年より大きく、近年平均並み

※近年：過去 5 年間 (2001~2005 年)

日本海におけるスルメイカ資源の動向

幼生の分布量の調査結果

昨年の秋に日本海西部から九州西岸海域において日本海区水産研究所および各県の水産研究機関によりスルメイカの幼生の分布量の調査が実施されました。幼生の採集には口径の異なる (曳き方も異なる) 2 種類のプランクトンネットが用いられていましたが、その平均採集個体数はいずれも昨年および平年値 (過去 5 年) の 6~7 割程と低い値となりました (図 1)。このことから日本海西部における昨年の秋のスルメイカの発生量は、前年および平年を下回っていたと考えられます。

加入前のイカの分布量の調査結果

イカ釣り漁業では体長 (外套背長) が約 15 センチ以上の大きさのイカが漁獲対象となりますが、漁獲対象となる前の大きさのイカの分布量を把握することで漁期前に漁況を予測することができます。スルメイカについても毎年、漁獲加入前の小型の個体の分布調査が実施されており、スルメ

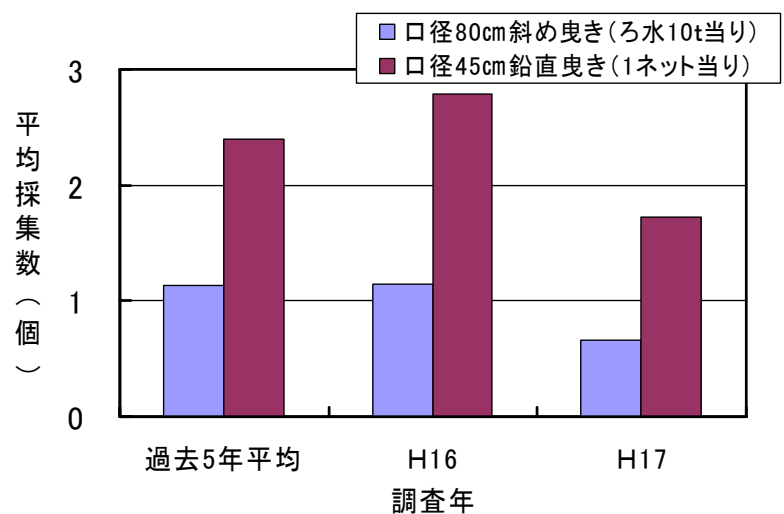


図 1 日本海西部海域においてプランクトンネットにより採集されたスルメイカ幼生の平均採集数の比較 (実施時期: 10~11 月)

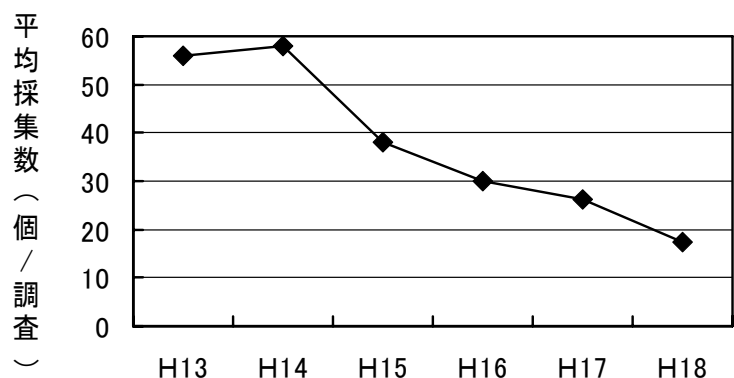


図 2 日本海の沖合において表層トロール網により採集された漁獲加入前のスルメイカの平均採集数の推移 (実施時期: 4 月)

イカの漁況を予測する上で重要な調査となっています。今年も4月に日本海沖合海域において、表層トロール網を用いた漁獲加入前のスルメイカの分布量調査が日本海区水産研究所により実施されました。その結果、採集されたスルメイカ（外套背長は2～10センチ）の1

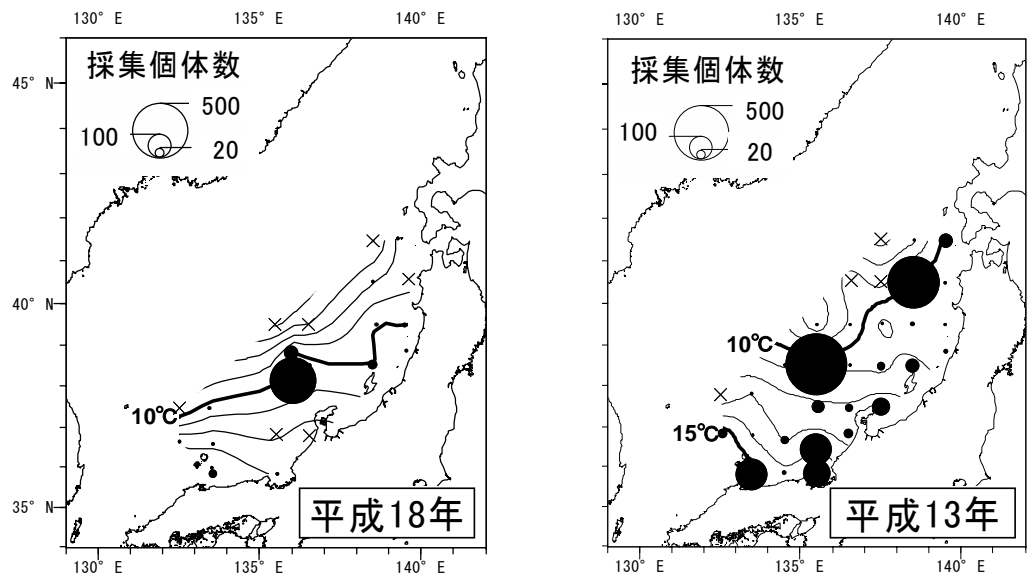


図3 日本海の沖合において表層トロール網により採集された漁獲加入前のスルメイカの採集数と表面水温の分布

(×印:採集数されなかった地点)

調査点当りの平均採集個体数は17.4個体となり、近年では最も低い値となりました(図2)。

漁獲加入前のスルメイカの分布域について、今年の結果と採集数の多かった平成13年とを比較すると、平成13年のスルメイカの分布域が青森沖から若狭湾周辺および山陰沖までの広い範囲に及んでいたのに対して、平成18年は全体的に分布域が狭く、大和堆南～佐渡沖を中心とした海域に限られていました(図3)。4月において大和堆南部から佐渡沖に分布したスルメイカは、今後は本州北部海域に来遊することが予想されることから、山形県～青森県では昨年を上回る漁獲が期待されるものの、新潟県以西では今後のスルメイカの来遊量は、昨年および平年を下回ると考えられます。

今後の島根県沖での漁況

スルメイカは低調傾向続く？

浜田港における小型イカ釣(5トン以上30トン未満、中型イカ釣(30トン以上)によるスルメイカの月別の漁獲動向を図4に示しました。平成18年のスルメイカの3月までの漁獲量は388トンで、前年の40%、平年の46%と低調に推移しています。

例年、5～7月の漁獲量は比較的少なく、前述のとおり日本海全域におけるスルメイカの資源量も、その幼生や加入前の小型個体の分布状況から昨年および平年よりも少ないと判断されていることから、島根県沖へのスルメイカの今後の来遊量は、残念ながらあまり期待できないものと考えられます。

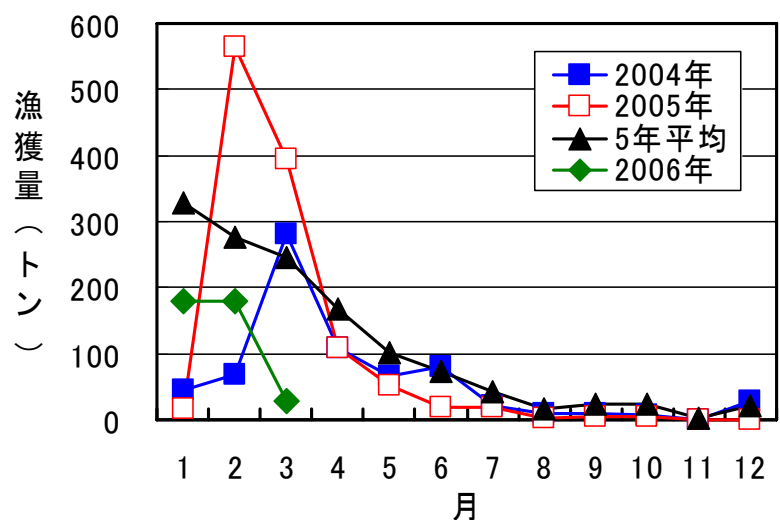


図4 浜田港にイカ釣り漁業(5トン以上)により水揚げされたスルメイカの漁獲動向(H18は3月までの値)